

平成 30 年度行財政改革推進審議会

「歴史・文化資源の活用及びその周辺地域との連携による地域活性化について」 答申後の施策案報告

本市では、市内に点在する数々の歴史や文化といった地域資源をみがきあげ、文化力を経済力に転換させることで、地域を活性化させる「歴史文化のまち」の実現を目指している。

そうした中、登呂博物館及び芹沢銈介美術館を中心とした登呂エリアにおいて、地域の活性化に向けた歴史・文化資源の活用及びその周辺地域との連携について、行財政改革推進審議会から答申を受けた。

答申では、エリアの目指す姿を

- ・「稼げる施設（文化力を経済力へ）」
- ・「市民が誇りを持てる施設（シビックプライドの醸成）」

の 2 点とし、提言として

「①市外からの誘客を図る」「②訪れた人が楽しむ」「③地域に対する愛着を生む」という具体的な取り組みのイメージを示している。

これら提言を具体化するためには、「登呂遺跡、登呂博物館、芹沢銈介美術館の価値を活かしながら、民間企業や地域住民等と連携して多様な取り組みを実施することで、登呂エリア全体としての魅力を高める」ことが必要となっている。そのための目指す姿を次のとおりとした。

2030 年までに目指す姿

歴史文化の価値を活かし、観光拠点とすることで、地域経済の活性化と市民の愛着を高める。

- ・弥生時代の農村を感じる非日常的な景観・空間を味わえる。
- ・特別な体験により、新たな客層が増加する。
- ・エリア周辺にも賑わいが生まれ、カフェや売店などの店舗が出店する。
- ・民間事業者によるイベントが開かれ、交流人口が増加する。
- ・市民が遺跡・博物館・美術館の価値を知り、誇りに思っている。

答申に対する取組の実施においては、中・長期的なスパンを要するものもあり、先行させることが効果を生むものもあるため、大枠での年次計画を以下の通り設定する。

目指す姿に向けた提言（具体的な取組のイメージ）

- 提言① 市外からの誘客を図る（歴史・文化資源を線をつなぎ、面で展開する）
- 提言② 訪れた人が楽しむ（非日常的な時間・体験を提供する）
- 提言③ 地域に対する愛着を育む（地域住民等が登呂エリアに親しむ機会を提供する）



短期的な取組（令和元年度～2年度）

- ②非日常感のある空間の演出
- ②特別感のある体験の提供
- ①SNS を活用した情報発信

中長期的な取組（令和3年度～）

- ②民間事業者の参入促進
- ①観光ルートへの搭載
- ③学校連携によるシビックプライドの醸成

「②訪れた人が楽しむ」

ア 非日常的な景観・空間の演出

観光客が期待する、日常から切り離された弥生時代を感じることができる景観・空間の演出を行う。

【答申における意見・要望】

- 日本の農耕文化が始まった遺跡のイメージがある。
- 日常から切り離された景観を楽しみ、ゆったりとした時間を過ごせる空間が期待される。
- 駐車場から、遺跡入口までに高揚感が求められる。

【答申における取組の提案】

- 水田跡を全面的に復元し、農村の原風景を演出する。
- 遺跡縁辺の樹木を増やし、周囲の日常的な空間を切り離す。
- 遺跡内に植樹し写真として映える景観を演出する。

答申ア を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

遺跡景観の向上のための植栽、全面水田化の実施 <登呂博物館>

「弥生時代に『タイムスリップ』したようだ。」と感じられる景観・空間とするため、登呂遺跡再整備事業基本設計（H16）をもとに、再整備事業で完了できていない当時の自然環境を再現した景観となるよう植栽の追加、水田の復元を行い、弥生時代の景観・空間を感じられる遺跡へと整備する。

- ▶ 遺跡縁辺や、広場に植栽を追加し、周囲の建築物を視覚的に遮断することで、弥生時代を感じられる非日常的な景観演出を行う。（R1 年度計画検討、R2 年度～R4 年度）
- ▶ 未利用の南側水田の試験耕作をし、土壌、高低差、給水上の課題を明らかにする。その上で水田と共に自然環境も復元を進め、将来は全面的な水田景観へ整備する。（R2年度～R4 年度）

中・長期的な取組の方向性

遺跡内景観の段階的整備（アプローチ経路） <登呂博物館>

- 遺跡の植栽追加、全面水田化から着手し、次の段階として駐車場からのアプローチ導線を、高揚感を保ちながら歩ける空間へと改修を行う。（R3 年度～R4 年度）
- 景観整備後の植栽生育状況を管理して、生物が生息する更なる非日常空間の演出に継続し努める。

美術館アプローチ整備 <芹沢銈介美術館>

- 登呂博物館、登呂遺跡からの誘導路や美術館を訪れる人にとって、分かりやすく、また、期待感を持って来館できるようなアプローチの検討・整備を行う。（R3 年度～R4 年度）

イ 特別な場所での特別な体験の提供

登呂遺跡と芹沢銈介美術館の特別感を活かし、これまでにない体験メニューを提供することでエリアへの誘客を図る。

【答申における意見・要望】

- 登呂博物館は、「参加体験型ミュージアム」をコンセプトとしており、体験の提供のための体制がある程度整っている。
- 芹沢銈介美術館は、芹沢作品の世界観を体現する独特な空間がある。

【答申における取組の提案】

- 登呂遺跡は特別史跡であり、特別感を生かした体験メニューは、新たな魅力となる。
- 宿泊体験、自然観察、泥遊び体験は幅広い年代が楽しめる。
- 芹沢銈介美術館で夜間の開館を期間限定で行うことで、建物の魅力が体感できる。

答申イ を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

特別感のある体験メニューの開発と実施 <登呂博物館・芹沢銈介美術館>

- ▶ 夜の遺跡内をキャンドルでライトアップし、ワークショップ参加者が手作りした「たけあかり」照明と合わせ、非日常的な遺跡空間を楽しむ、遺跡キャンドルナイトイベントを実施する。（R1 年度）

▶美術館でナイトミュージアム（夜間開館）を実施する。夜間に館内でコンサート等のイベントを開催し、普段できない体験を提供する。その際、日光を遮るため日中カーテンで閉ざされている窓部分を開放し、館内から中庭の池や池越の景色が見えるようにし、芹沢銈介美術館の建築物としての魅力を感じられるイベントとする。（R1 年度）

中・長期的な取組の方向性

体験メニューの定着化、追加<登呂博物館>

景観の演出を進めることで遺跡の魅力を高め、将来は遺跡を会場とした体験メニューを大学等外部団体との連携により定着させ追加していく。自然観察のように博物館独自では行い難いイベントも、外部講師やボランティアの協力を求め実施のハードルを下げ、実施ノウハウを持つ講師が参加しやすい仕組みを検討していく。

美術館建築を楽しむイベントの実施<芹沢銈介美術館>

建物自体が、建築家・白井晟一氏の作品「石水館」という格調の高さを誇る美術館として、建築家による解説や、建物の見所などを紹介するイベントを実施し、地域資源としての美術館の価値を知ってもらう取り組みを行う。

ウ「いつでも」「誰でも」「何でも」楽しめる仕掛け

登呂エリアの賑わいを創出するため、フェス、マルシェ等の外部団体が主催する集客力があり、収益性が高いイベント等の会場として活用する。

【答申における意見・要望】

- 賑わいを創出する手段の一つとして、広場のイベント等の会場としての活用が考えられる。
- 市内外からの集客力があり、開催費用を売り上げで賄える収益性の高いイベント等を想定する。

【答申における取組の提案】

- 社会実験的にイベント等の主催者を募り、取組を広げていく。
- 民間が参入できる仕組みを検討する。
- 週末などに「そこへ行けば『何か』やっている」ことで人が集まってくる。

答申ウ を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

スルガフェス in 登呂の開催 < 駿河区地域総務課、登呂博物館、芹沢銈介美術館 >

▶ユニークベニューの試行として、駿河区地域総務課と連携し、駿河区の魅力の発掘をテーマに、大学生をメインターゲットとする「スルガフェス in 登呂」の会場として、広場スペースを提供する。博物館、美術館は、ワークショップを開催しイベントに協力し、イベント会場としての認知度向上を行う。(R1 年度)

博物館前広場の芝生化 < 登呂博物館 >

▶博物館前の広場の芝生化 (R1 年度計画検討、R2 年～R3 年度)
広場の芝生化により水田と連続した緑の空間とし、砂埃の発生を防ぎ、イベント広場として利用しやすく、魅力を高める。

中・長期的な取組の方向性

民間主催の大きなイベントの再編・誘致 < 登呂博物館、芹沢銈介美術館 >

▶アの人が集まる景観整備を先に取り組み、先に「駿河区旬穫祭」「オクシズ」「しずまえ」などの会場としての開催を、市関係各課との協議を行い開催することで、会場としての更なる認知度を高め、民間事業者へ誘致活動を行っていく。また、現在行っている登呂まつりの在り方について、エリア活性化の視点から検討を行っていく。

民間が参入しやすい手続き等の条件整備 < 登呂博物館、文化財課 >

▶公の施設の使用許可については、公園管理者である公園整備課が許可を行っているが、史跡であるため文化財保護法の規制もあり、民間団体にとって許可の条件がわかりにくく、活用ニーズが生まれにくい状態にある。博物館や文化財課で、民間団体が参入しやすい手続き等の条件整備を行い、利用が可能な事例を紹介するなどの取組を行う。

エ「サードプレイス」としての空間づくり

第三の居場所として、居心地のよい空間を作り出すことで、地域コミュニティの核の役割を担う。

【答申における取組の提案】

- ・景観を楽しみながら飲食ができるカフェやレストランを設置すれば、地域住民や観光客の居場所になる。
- ・富士山が望むことができる博物館屋上テラスをテラス席として活用する。

答申エ を受けて着手する取組・取組の方向性

中・長期的な取組の方向性

屋上テラス席等での飲食席導入検討<登呂博物館>

▶民間のキッチンカーの営業を呼び込む等、広場を人が集える非日常的な利用の場（例えばオープンカフェ）として利用する検討や、博物館屋上テラスを景観を楽しみながら飲食できる空間として利用するための検討を行う。

「①市外からの誘客を図る」

ア 登呂エリアが持つ価値を訴求力へつなげる

登呂エリアに人が訪れ、消費活動や民間参入が生じるために、各施設のもつ価値をどうアピールするか検討し、今後の取組の方向性を明確化していく。

【提言①アにおける意見・要望】

- ▶3つの施設（遺跡・博物館・美術館）の価値を魅力につなげる。
- ▶ターゲットを決め、どうアピールしていくか検討し、取組の方向性を検討する。

【提言①アにおける取組項目】

- A 観光施設等とのネットワーク化
- B SNS等を活用した効果的な情報発信
- C 駅等からの来場者の誘導

A 市内外の観光施設等とのネットワーク化

歴史文化施設を中心として、市内の歴史・文化資源をネットワーク化し観光客の回遊性を高め、多様な観光ルートを設定する。

【答申における意見・要望】

・「歴史文化施設」は、市の歴史を紹介する歴史ミュージアムであるとともに、観光客へのビジターセンター機能がある。

【答申における取組の提案】

・歴史文化施設を中心に、市内歴史・文化施設をストーリーで関連付ける。
・観光客の属性・目的・交通手段に合わせ、ニーズに対応できる多様な観光ルート（親子連れ・歴史・食・自転車移動）を設定する。

答申ア-A を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

新たな観光ルートの試行 <登呂博物館、芹沢銈介美術館>

- ▶多様な観光ルート設定の試行として、登呂エリアにある駿府博物館と連携し、登呂博物館、芹沢銈介美術館の 3 館に飲食店を加えて回遊するイベントを実施する。（R1 年度）

中・長期的な取組の方向性

登呂エリアの周遊観光ルートへの搭載 <登呂博物館、芹沢銈介美術館>

- ▶登呂エリア博物館回遊イベント（R1）の試行を基に、歴史文化施設を中心に想定した周遊観光ルートに登呂エリア施設が位置づけられるよう、歴史文化課、観光・国際交流課、するが企画観光局と協議を行う。（R3～）
- ▶歴史文化施設を起点とした観光ルートの定着化により、各施設が相乗効果で集客することで市の交流人口増に貢献する。（R5～）

B SNS 等を活用した効果的な情報発信

エリア内の景観・空間を整えるとともに、SNS への掲載を促す仕掛けを作る。

【答申における意見・要望】

- 若い世代やインバウンド客にとって、SNS は訪問先を決める情報源となっている。
- SNS では、いかに情報を拡散してもらうかが鍵となる。

【答申における取組の提案】

- 遺跡の景観を整え、SNS で情報を拡散してもらう。
- 「映える」写真が撮れるスポットを設定する。
- フォトフレーム等、SNS 掲載を促す仕掛けを作る。

答申ア-B を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

博物館公式ツイッターでの情報拡散 <登呂博物館>

▶博物館ホームページに公式ツイッターを設け、エリアの魅力を拡散する。また、撮影ポイントやイベントの情報を掲載し、遺跡・博物館フォロワーを増やし SNS で参照される頻度を上げていく。

さらに博物館ホームページのリニューアルでは、ターゲット層と訴求するポイントを明確に示したサイト構成とし、アクセス数と来訪者数を増やしていく（R1 年度）

中・長期的な取組の方向性

効果的な広報手段の検証 <芹沢銈介美術館>

- SNS の活用による広報活動の可能性の検討を行う。
- SNS 以外の広報として、今後は雑誌以外に新聞等にも広告を掲載し、より広汎な情報の発信を行っていく。

C 駅等からの来場者の誘導

登呂エリアは、JR 静岡駅や静岡空港から離れた場所にあり、乗換ポイントを通過する来訪者に、移動経路等の情報をわかりやすく示す工夫が効果的である。

【答申における意見・要望】

- 登呂エリアは、駅等の交通拠点から離れた位置にある。
- 日本平久能山スマートインターチェンジの供用が予定されている。

【答申における取組の提案】

- 駅、空港、ICの乗換ポイントを通過する来訪者に、寄ってみようと思わせる仕掛けが効果的である。
- 乗換ポイントで、エリアへの移動経路や移動手段に関する情報をわかりやすく示す工夫をする。

答申ア-C を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

公共交通機関での来場案内の実施 <登呂博物館、芹沢銈介美術館>

- 移動経路内の車内放送、バス停等少額費用でアクセスの案内が実施できる方法を検討、実施する。(R2)

中・長期的な取組の方向性

乗換ポイントでの情報提示の取組 <登呂博物館、芹沢銈介美術館>

Aの周遊観光ルートへの搭載に合わせ、駅、スマートインターチェンジにて市関係各課、外部機関と協議しエリアへの移動経路、移動手段の表示に取り組む。(R3~)

「③地域に対する愛着を育む」

ア 郷土の誇りとしての存在感の醸成

市民の登呂エリアに対する誇りを育むため小中学校と連携し、登呂遺跡、登呂博物館に触れる機会を設けると共に、芹沢銈介の存在感を高める取組を行う。

【答申における意見・要望】

- ・静岡型小中一家教育で「しずおか学」として地域に愛着を持つ子どもを育てる取組がある。
- ・市民の中でも、芹沢銈介の認知度が低下している。

【答申における取組の提案】

- ・小中学校と連携し、遺跡・博物館に触れる機会を設ける。
- ・冊子配布等、芹沢銈介の認知度を高める取組が必要である。
- ・子供たちに、それぞれの本質的価値を「物語」として伝える。
- ・高校、大学と連携した活動を他の学校に広め、住民等にも参加してもらう。

答申ア を受けて着手する取組・取組の方向性

短期的な取組

小中学生に向けた案内事業 < 芹沢銈介美術館 >

- ▶小中学校にあてて出張講座の案内や、学校行事としての来館の案内などを随時行い、学校への出前講座の実施や、学校行事・生徒個人としての来館により芹沢銈介の作品や業績を知ってもらう機会を増やす。(R1 年度)
- ▶小中学生に、芹沢銈介と美術館の価値を伝える取組を研究し、学校や生徒個人に冊子等を配布するほか、他機関と連携し啓発活動を行う取組について検討を行う。(R1 年度)

高校、大学、専門学校との連携事業 < 登呂博物館 >

- ▶これまで市内の高校、大学、専門学校と連携した、博物館や遺跡内での様々な活動の実績がある。今後は、連携先の学校を拡大することと、連携事業への地域住民の参画にもらうことで、地域における登呂エリアの存在感を高めていく。(R1 年度～)

【参考：学校連携の実績】

- ・展示ガイド、イベントへの協力ー城南静岡高校
- ・生物観察への講師派遣、学生の協力ー常葉大学
- ・登呂紙芝居、すごろくのイベント参加ー常葉大学
- ・登呂遺跡のロゴマーク案の作成ー常葉大学
- ・トロバー着ぐるみのイベント参加ー静岡大学
- ・登呂遺跡、博物館のCIについてのプレゼンテーションー静岡デザイン専門学校

高校、大学、専門学校との連携事業<芹沢銈介美術館>

▶これまで市内の高等学校と連携し、学校の教育活動に関わっている。今後も同様の活動について機会を探っていく。大学や専門学校については、イベント開催等の協力など学生に参加してもらえる機会や学校等との調整を検討していく。

【参考：学校連携の実績】

- 学校の授業における芹沢銈介や染色についての講義のための講師派遣—静岡高校
- 学校の授業における芹沢銈介や染色の授業での美術館利用—東海大学附属静岡翔洋高校

中・長期的な取組の方向性

学校と連携した登呂エリアに親しむプログラム<登呂博物館、芹沢銈介美術館>

▶市民のシビックプライド醸成のきっかけの一つとして登呂遺跡の発見の意義と、芹沢銈介の業績を継続し周知する試みを行う。そのためには、次世代を担う小中学生から、高校、大学生まで繰り返し触れてもらう場を作ることが重要であり、学校と連携し、小学校カリキュラムの「しずおか学」での紹介等で登呂エリア施設に親しむ機会を作っていく。

地域住民に向けた登呂遺跡を学ぶプログラム <登呂博物館>

▶幅広い年齢層（就学前の幼児～ファミリー層、シニア層）と来訪回数を対象とした体験メニューを用意し、繰り返し体験でき、登呂遺跡に関わる幅広いテーマについて学びを深めていくプログラムを提供する。来訪者は、プログラムの段階を追って、静岡市民にとって登呂遺跡が発見、保存、公開されている意義を理解し、シビックプライドの醸成が行われるものとし、段階が上がることで達成感を得られる仕組みも導入する。